

創始者の魂を受け継ぎ、温かく厳しく支えていく――

島田市の女子サッカーチーム「島田プリンス」は、長年の努力が結実し、今年の第30回静岡県女子サッカーリーグで、初めて年間優勝を果たしました。監督である田中さんは、子どもから大人まで総勢80人を超す、大きな家族のようなチームをまとめています。

【島田プリンスとの出会い】

22年前、市内で初の女子サッカーチームとして「島田プリンス」が誕生。島田市スポーツ少年団を立ち上げた故鈴木基廣氏が生みの親です。

このチームに田中さんの次女淳美さんが入団。基廣さんからウォーミングアップ指導への協力を頼まれ、田中さんはチームに携わることになりました。「当時の子どもたちの技術に触発され、だんだんサッカーにのめり込んでいきました」と笑顔で振り返ります。



田中さんは小学生から野球を始め、今も「島田OB」で現役選手を続けているスポーツマンですが、サッカーとの出会いは32歳。それからあつという間に22年が経ち、監督になりました。

を見て話す、などですね。また、相手があつてこそ試合が成り立つので、相手を思いやる気持ちを持つようにも指導しています」と田中さんは言います。

田中さんは各選手の家庭環



女子サッカー「島田プリンス」代表、監督
田中博英さん（向谷元町）

【指導に込める思い】

「うちのチームは、基本練習を大事にしているけど、それ以上に大切なのは社会人になっても通用する生き方を伝えること。挨拶、時間厳守、敬語などの言葉遣い、人の目

境にも配慮し、送迎などそれぞれができる範囲で協力するように気をつけてきました。「おかげでチーム全体のつながりが深まり、精神的な成長も遂げ、今の強さに実を結んだのだと思います」

【チームはファミリー】

島田プリンスは、今では幼稚園児から母親になった大人までが所属する大所帯になりました。その中には、母親がチームで汗を流したという2世もいます。

「年長の選手は、よく年下の子の面倒を見てくれます。父兄も、自分の子と同様に他の子をしつてくれるんですよ。本当に、今のチームの状態は最高ですね」と田中さんは頬をほころばせます。

他のコーチたちと共に、子どもたちの育成に力を注いできた田中さん。「大人になった子たちが手伝ってくれるようになりました」と、卒団者から後継者が生まれることを期待しています。

11月30日に、県リーグ1部11チームの総当たり戦による年間優勝を懸けた試合が行われました。島田プリンスはチームワークの良さを発揮し、見事に2対1で勝利して、初優勝を果たしました。創立以来初の快挙に「全ての人に感謝です」という田中さんの声は、とてもはすんでいました。



子どもから大人までの選手、OB、父兄に愛され続ける「大きな家族」

Shimadian File #53

